

平成26年度 学校評価総括表 伊丹市立桜台小学校

教育目標		心豊かでたくましく、自ら学ぶ意欲をもつ児童の育成						
重点目標		①「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善を進め、自ら学ぶ意欲を育てる。②豊かな人間性を育てる心の教育の推進。③共感的な児童理解に基づく生活指導の充実。④たくましく健康な児童の育成。⑤教育環境の整備と学校安全の充実。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	「わかる授業」「楽しい授業」をめざした授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。</li> <li>・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。</li> <li>・「わかる授業」を進めるため、ユニバーサルデザインの授業研究を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の小テスト、算数の振り返りテストを定期的実施する。</li> <li>・全ての教員が年1回以上授業を公開するとともに、授業研究を伴う校内研修を年間3回以上実施する。</li> <li>・週に1回以上の放課後学習や算数タイムで、定期的に学力補充を進める。</li> <li>・ユニバーサルデザインの授業に関する研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字テスト、振り返りテストの正答率が90%以上になる。</li> <li>・全ての教員が年1回以上授業を公開する。</li> <li>・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が85%以上になる。</li> <li>・各教科の評価テストにおいて、平均正答率が8割程度になる。</li> <li>・ユニバーサルデザインの</li> </ul>	B	<p>授業改善を通して、主体的に学ぶ児童の育成を目指してきたことで、教師の教材研究が深まったり、教材の工夫が見られたりようになった。また、ユニバーサルデザインの研修会を1回実施し、職員への啓発が図れた。さらに、家庭学習「30分、60分、90分」を目指して、宿題とセットにした「さくらノート」の活用が進んできた。当初目標の「授業はわかりやすく楽しい」と答える児童は約85.1%となった。また、漢字や計算の評価テストの平均正答率は概ね8割程度である。</p>	<p>朝の学習タイムを算数の基礎基本と読書タイム、書く力の向上を目指したえんぴつタイム」の取り組みを進め、基礎的計算力・国語力の向上に努める。また、家庭学習の定着のために取り組んでいる自学ノート「さくらノート」の内容が豊かなように啓発を進める。若手教員の授業力並びに学級経営力の向上を図るため、主幹教諭、研究担当者によるOJTを計画的に進める。</p>	<p>今年度少しずつ「さくらノート」の活用が進んできた。このことで家庭学習への意欲づけと保護者への啓発になったと感じる。継続して取り組んでいただきたい。また、授業の改善の一つとして、ICTの利活用がさらに進むことが必要と感じる。さらなる取り組みに期待する。</p>
	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。</li> <li>・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させる。</li> <li>・単元の中で、グループや全体において、自分の考えを伝え合うなどの話し合いの場面を設定する。</li> <li>・朝の読書タイムや学期に1回の「読書習慣」の推進、ことば蔵を活用した学級文庫の充実により読書習慣作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の記述問題において、無答率が0%になる。</li> <li>・ワークシートや授業の振り返りの記述に、考えの深まりが見られる。</li> <li>・児童アンケートで「本をたくさん読んでいますか」と回答する割合が80%以上になる。</li> </ul>	B	<p>書く時間を設定するように授業改善を図ってきた。その結果、少しずつ書くことへの抵抗が和らいできている。また、読書マラソンの取組や学習に関する図書を教室に配置するなどの環境整備によって、「本をたくさん読んでいます」と答える児童の割合が約87%となった。また、国語の記述問題の無回答率はほぼ0%となっている。</p>	<p>桜台小学校で大切にしている授業の「型」についての共通理解を進めるとともに、考えをまとめるワークシートの効果的な活用を図ると共に、自分の考えを友だちと交流する時間を設定した授業展開を恒常的に行い、思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、学習と関係する図書を教室前に配置したり、読書習慣の取組を見直すなど読書環境を整備し、読書習慣の形成を量る。</p>	<p>読書に関する当初目標は達成されたことを踏まえて、さらに読書環境の整備に努めてもらいたい。思考力・判断力の育成のカギは授業にあるので、今後も授業の型についての研究を深めてほしい。</p>
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。</li> <li>・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入・展開・まとめのそれぞれにおいて、電子黒板や実物投影機等のIT機器の活用を進め、児童の学習意欲を高める。</li> <li>・家庭学習の目標時間低学年30分、中学年60分、高学年90分を達成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が85%以上になる。</li> <li>・授業で、電子黒板や実物投影機などのIT機器の活用に努めた割合が80%以上になる。</li> <li>・低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間を達成</li> </ul>	B	<p>「先生は、教え方にいろいろ工夫している」とについては、89%が肯定している。また、授業における電子黒板や実物投影機などのIT機器の活用に努めた割合は56%で昨年度より6%の向上である。学校・学級通信、懇談会など色々な場面で、家庭学習の目標時間を周知したことで、学校評価において、例年に比べ宿題等に関する保護者の意見が数多く寄せられた。しかし、目標時間を踏まえた課題を出せたという教師は50%台にとどまった。</p>	<p>ICTモバイルセット等のIT機器が日常的に活用されるよう理科室や図工室などに常時設置するとともに、各フロアーに1台のモバイルセットを配置し活用の促進を図ることで、児童の学習に対する興味関心を高め、学習意欲の向上を図る。</p>	<p>授業における導入の工夫やICT機器の活用は一定進んでいるが、今後は研修会などを通してさらなる普及に努めてほしい。</p>

豊かな心・健やかな体	不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童の未然防止に努める。</li> <li>・道徳の授業をはじめ、いろいろな場で互いを大切に、違いを認めあえる子どもを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目の欠席でも理由により家庭訪問を行うとともに、関係機関との連携を密にし、保護者への粘り強い働きかけを行う。</li> <li>・各学期はじめの月を「あいさつ月間」と位置づけあいさつ運動に取り組む。</li> <li>・各学期1回は、「いじめアンケート」調査を実施し、その対応を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童数が0人になる。</li> <li>・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。</li> <li>・児童アンケートにおいて、「先生や友達に、すすんであいさつしている」と回答する割合が80%以上になる。</li> <li>・児童アンケートにおいて「クラスで、命を大切にすることやいじめやいたずらをされた人の気持ちを考えていますか」と回答する割合が85%以上になる。</li> </ul>	B	<p>担任・管理職が連携品柄、家庭や児童に働きかけているが、協力を得られない4件の家庭で6名の長期欠席児童がいる。また、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答する児童の割合は、約89.5%であった。</p> <p>「先生や友達に、すすんであいさつしている」と回答する割合が78%、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合は、89%であった。また、いじめに関しては、毎学期ごとに児童アンケートをとり、迅速にその対応を図っている。</p>	<p>1日目の欠席でも理由により家庭訪問を行うなど家庭とのつながりを深めると共に、登校しにくい状況がどこにあるのかを見極めるためのケース会議を定期的に行う。学校朝礼などにおいて、「おもいやり」「自尊心」等をもとにした講話を年間をととして、計画的に行う。</p> <p>年度当初と各学期の最初の月をあいさつ推進月間として「あいさつ」の励行を進める。また、月に1度15日前後を「こころの日」として、道徳教育年間計画並びに人権教育年間計画からテーマを設置し、全学年で授業を実施する。</p>	<p>登校しにくい児童の状況に応じて対応していただいていることは評価できるが、数が減少しないことが課題である。家庭や関係機関とのさらなる連携をお願いしたい。</p> <p>評価は妥当である。今後取り組みを継続されることに期待する。</p>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で自ら進んで運動に親しむ児童を育て、基礎体力の向上をめざす児童を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育時にペースランニング、サーキットトレーニング等を効果的に取り入れ、体力作りの基礎を培う。</li> <li>・冬期の業間休みに週一回耐寒訓練を実施する。</li> <li>・領域のバランスを考えた体育の年間指導計画を立案し、運動に親しむ機会を増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツテストの伊丹市の目標指数100(県平均)を超える。</li> <li>・子どもへのアンケートで、「体育がすき」という子どもが8割以上になる。</li> <li>・半数以上の児童が業間休みにに運動場で遊ぶ。</li> </ul>	C	<p>「体育がすき」と答える児童は、85%と目標値を超えたが、スポーツテストの指数については、5年男子3種目、女子4種目が全国を下回った。特に男子のシャトルラン、女子の反復横跳びに課題がある。</p>	<p>スポーツバッジ制度への取組を進め、子ども達に自己の体力に対する関心を高めると共に、単元学習の導入や準備運動の工夫など、教科体育の中での取組を系統的に行う。</p>	<p>スポーツバッジ導入により児童の体力への関心が生まれていることは評価できるが、運動環境をさらに整えていただきたい。</p>

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な機会をとおして、積極的に学校情報を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりを週1回以上発行し、地域にも配布する。</li> <li>・学校ホームページを月1回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。</li> <li>・あいさつ、言葉づかい、服装、時間を守ることなどのマナーや生活のきまり等を取り上げた学校便りの発行を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりを週1回以上発行する。</li> <li>・自校のホームページを月1回以上更新する。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。</li> </ul>	A	<p>学校通信月1回以上の発行並びに、ホームページの更新は十分に実施できたと考える。また、保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合は、93.6%、「学校は保護者の願いに応えている」と回答する割合は、89%とほぼ目標を達成した。</p>	<p>行事を伝えるためだけの学校便りではなく、教育に関する今日的な課題から、教育活動に関する情報など幅広い視点で発信することで、保護者の学校への関心を高めたい。</p>	<p>評価は妥当である。今後も取り組みを継続されることに期待する。</p>

**学校関係者評価総括**

心の教育を大事にされながら教育活動が進められていると感じる。学力に関しては、新たな取り組みが始められていることは伝わってくる。学校・保護者・地域が一体となって、さらによりよい学校づくりを目指してほしい。

**次年度に向けた重点的な改善点**

月曜日の放課後学習の設定や授業改善による「わかる授業」の創造と高学年が、月曜日に設定する県の授業と連携した放課後学習により、基礎基本の確実な定着を図るなど学力の向上を目指す。身近に本がある環境をさらに整備し、読書習慣の定着を図る。インクルーシブ教育を進め児童の自尊感情を高める。